

大会運営委員会企画シンポジウム

「社会心理学の明日 一次世代の挑戦」

企画者： 日本社会心理学会大会運営委員会

司会者： 宮本聡介 明治学院大学心理学部

話題提供者： 石井敬子 神戸大学大学院人文学研究科

話題提供者： 及川昌典 同志社大学心理学部

話題提供者： 大坪庸介 神戸大学大学院人文学研究科

話題提供者： 熊谷智博 大妻女子大学文学部

指定討論者： 三浦麻子 関西学院大学文学部

内容：日本社会心理学の歩みも半世紀を超え、歴史と功績を振り返り、将来を展望するさまざまな企画が行われてきた。昨年度の第 50 回大会のシンポジウムでも、現状からの脱却と新たな社会心理学の展開について活発な議論が行われた。そこでは、研究領域や国や文化の枠を越えて活躍されている研究者に話題提供をしてもらい、社会心理学の現状を反省し、「こころと社会」に関わる本質的研究課題への挑戦について深慮した。本年度の第 51 回大会でも昨年度の問題意識を引き継ぎ、より若い世代の研究の中に社会心理学の未来を探るシンポジウムを企画した。日本の社会心理学界の中で、まだ広くは知られていないとしても、今後大きな潮流となるかもしれない挑戦を開始されている研究者の方に話題提供をしていただき、社会心理学研究の未来と可能性について大いに議論したいと考えている。

日時：H22 年 9 月 17 日（金）13：45～15：45

場所：広島大学大学院教育学研究科 L205

対象：参加資格はありません。テーマにご関心のある方はふるってご参加ください。

参加費：無料

問い合わせ先：日本社会心理学会第 51 回大会準備委員会
jssp2010@hiroshima-u.ac.jp

特別企画シンポジウム

「日本社会における『助ける』、『助けられる』、『助け合う』という
ことの社会的意義は？」

企画者	高木 修	関西大学社会学部
司会者	田中 優	大妻女子大学人間関係学部
話題提供者	松浦 均	三重大学教育学部
話題提供者	太田 仁	梅花女子大学心理こども学部
話題提供者	小樽雅章	向社会性研究所
指定討論者	松井 豊	筑波大学人間総合科学研究科

内容：援助行動研究は、1964 年の Kitty Genovese 嬢殺害事件を契機に、どのような人が、どのような時に、人を「助ける」のかという、援助者を中心に据えた研究から始まった。その後、焦点を被援助者に据え変え、どのような人が、どのような時に、自ら求めて「助けられる」のか、さらには、援助者と被援助者の両者を同時に視点に収め、どのような人たちが、どのような時に、「助け合う」のかについて、研究が行われてきた。研究知見が蓄積され、多くのことが解明されてきたが、昨今の日本社会やそこにおける対人関係の様相は、今までにはないほど多様で、複雑になっている。そこで、過去、現在、未来の日本社会を展望し、「助ける」、「助けられる」、「助け合う」ことの社会的意義について議論していく。

日時：H22 年 9 月 18 日（土）14：00～16：00

場所：広島大学大学院教育学研究科 L205

対象：参加資格はありません。テーマにご関心のある方はふるってご参加ください。

参加費：無料

問い合わせ先：日本社会心理学会第 51 回大会準備委員会
jssp2010@hiroshima-u.ac.jp